事例No.	2473
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	敷島自治区

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	移住・定住促進

事例内容・タイトル

移住者受入れでよみがえる地域「しきしま」～都市とつながり、自分たちのふるさとは自分たちで守る～

出典

令和2年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

敷島自治区（しきしまじちく）

移住者受入れで蘇る地域「しきしま」
～都市とつながり、自分たちのふるさとは自分たちで守る～



空き家見学、移住者訪問などを行う「暮らしの参観日」、「空き家片付け大作戦」などのイベントを通じ、空き家活用が推進されている。

●事例の概要

敷島自治区は、豊田市内で過疎化、高齢化の著しい旭地区（旧旭町）にあり、危機感から2010年に将来ビジョン「しきしま・ときめきプラン」を策定し、都市との交流、移住者の受入れを柱としたプランは５年ごとに見直され、計画推進のための組織体制、評価の仕組みなど自立した自治が営まれている。

移住者の受入れを柱として取組んできたことで、プラン策定から10年間の移住者はＵＩターン者の目標の２倍にあたる移住者を受入れを達成した。子育て世帯が多く移住してきたこともあり、旭地区は移住先進地として注目されている。また、空き家活用を企業に広げ、サテライトオフィスや古民家カフェの誘致にも成功している。

プランの成果として、徹底的な空き家活用や住民自らの主体的な関係人口活動に繋がっている。ＵＩターン者においては、スモールビジネス起業が相次いでおり、地域内での経済循環につながるなど在住者との濃い関係性と、地域の活力を生み出している。



住民の総意で策定された「しきしま暮らしの作法」は、事業所を含む全戸に掲出され、空き家活用による移住者受入れなどの気運の醸成に役立っている。

●評価のポイント

敷島自治区は、豊田市への合併時に、旧旭町内の敷島小学校区（当時）の９集落を範域とし、当初は、敬老会や盆踊りなど、集落単位では行えない行事を担う組織だった。そこに2009年、市のプロジェクトを機に、都市部出身の若者10名が空き家に移住。地元は当初は半信半疑だったが、若者たちが主体的に活動に関わる姿に、「まず、自分たちが地元の将来像を描けていないと」という機運が住民から生まれ、プロジェクトチームを立ち上げ、「しきしま･ときめきプラン2010」を策定。都市住民との交流を増やす「しきしまサポーター」制度や「週末ファーム」、一人暮らしの高齢者を支える「集いの家」の整備などを打ち出した。

次第に住民の意識が変わってきたことから、「しきしま・ときめきプラン2015」の策定を機に、６つの専門部などに組織を組み直し、課題解決型で事業を実行する自治区運営を本格化させた。また、プランの理念をコンパクトにまとめた「しきしま暮らしの作法」を全戸配布し、地域が進む方向が理解されると、空き家の提供など活動に協力してもらえる雰囲気も生まれてきた。

敷島地区の地域づくりの特徴は、地域住民など各主体が活動を展開し、自治区組織は黒子役に徹する点にある。さくら村の「ガキ大将養成講座」、福蔵寺ご縁市など多彩なプログラムや移住者が起業したスモールビジネスを通じて、2019年度の交流人口は延べ5000人にのぼる。こうして都市とつながる関係人口の中から、暮らしの参観日（空き家見学会）などの機会を通して、地域が元気に持続できるような移住者を、自治区が責任をもって選び受け入れ、この10年間で40世帯、96人の移住者を呼び込み、近年では地元出身者のＵターンも目立つ。また企業とも理念や方向性を丁寧に共有した連携が次第に本格化し、古民家カフェやサテライトオフィスへの空き家活用が実現しつつある。

それでも区民の減少は続き、10年後には800人を下回る見通しの中で、山村地域再生への新たなステップに挑戦すべく、プラン2020を策定。その中で、少人数社会での暮らしを支え合うシステムの構築や都市住民が買い支える農地保全、集落行事や組織の再編を図る３つの重点プロジェクトを設定し、未来志向を打ち出す。

敷島自治区のこの10年のプロセスには、地域を開いてここに暮らす価値をさまざまな主体と共有し、今なすべきところを着実に形にし、それを未来につなぐ姿勢が一貫して見出せ、過疎地域の地域づくりの王道として高く評価したい。



５年ごとに見直される「しきしま・ときめきプラン」は、全戸アンケート、意見公募、公開討論などにより、住民の総意で策定され、活動の指針となっている。



関係人口の拡大を目標に、自治区支援の下で、「ガキ大将養成講座」など多くの農都交流が行われ、年間交流人口は、延べ5,000人を数える。



空き家交渉は、各集落選出の定住推進員が中心となって行う。交渉成立に５年がかかることもあり、粘り強い交渉が必要となる。

DATA 愛知県 豊田市（とよたし）

団体名▶敷島自治区
所在地▶〒444-2816 愛知県豊田市杉本町奥西山49（敷島会館）
連絡先▶TEL：0565-68-3100
E-mail：tatsuyoshi.suzuki@gmail.com

【交通のご案内】

自動車▶東海環状自動車道　豊田勘八ICより約30分
東海環状自動車道　豊田松平ICより約30分
猿投グリーンロード力石ICより約30分

鉄　道▶名鉄三河線を利用
豊田市駅からとよたおいでんバス旭･豊田線（小渡行）70分、旭・足助線（足助病院行）10分、杉本下車徒歩２分

飛行機▶中部国際空港（セントレア）から鉄道または空港バスで名鉄豊田市駅まで約１時間



● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
豊田市（旧）旭町	7,452	4,446	3,504	3,533	2,976	2,692

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
豊田市（旧）旭町	-63.9	-39.5	-23.2	-23.8	-9.5

● 高齢者・若年者比率（H27年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
豊田市（旧）旭町	43.8	12.1

20-09-343　令和2年度過疎地域自立活性化優良事例表彰パンフレット.indd　9-10　2020/11/11　20:33:29